



カトリック六甲教会 教会報

2008

5

No.437



武将 熊谷豊前守元直の殉教

評議会議長 高山 吉彦

今年11月24日に長崎で列福式を迎える188名の殉教者の中に、メルキオル熊谷豊前守元直がおります。熊谷元直は源氏の荒武者熊谷直実の17代末裔にあたり、毛利藩内随一の豪傑であると共に熱心なキリシタンでした。ところが、お家再興を夢見る毛利輝元は幕府のキリシタン禁教令に従い家臣の元直を槍玉に挙げました。しかし元直の心の中では武士道とキリストへの奉仕は決して相反するものではなく、キリストこそ最高の主君で、輝元は地上の主君であり、キリストへの信仰と武士道は一致していたのです。輝元の再三の説得にもかかわらず、彼の信念が変わることはありませんでした。

ついに輝元は萩での築城工事の遅れを理由に元直を厳罰に処することを決心し、1605年、被昇天の祝日の翌日、元直は聖画の前に跪いて斬首されました。

元直の殉教を振り返る時、永遠にキリストと一致することを貫いた姿に深く心をうたれました。我々が今これらの殉教者の精神に報いるために何をすればよいのでしょうか。キリストは我々に何を望まれるのでしょうか。自らの信仰を深めていくことが神の愛に応える第一歩だと思います。

幸い我々の教会では4月から信仰養成のための多くのプログラムが組まれています。主日のごミサに与るだけでなく、積極的にこれらに参加して、信仰が単なる知識に留まることなく、日々の生活に生かしていくことです。共同体の講座に参加することによって、信徒同志の新たな分かち合いが生れることも大切です。

信仰を自らの生活に根づかせ、次世代の自分達の子供、孫、さらには身近な若者達に信仰を確実に繋げていくために、我々の信仰の絶えざる働きかけが必要であり、今の時代に生きる我々に課せられた使命ではないでしょうか。

殉教者の模範に支えられて愛と希望を持って、困難や苦しみを幸せに変えていく信仰生活をこれからも歩んでいきたいと思えます。

萩カトリック教会で発行された、「キリストの証し人メルキオル熊谷豊前守元直」の冊子を参考にしました。





信徒の教会づくり

今月より、私たちの「信徒の教会づくり」を考えていくために、いろいろな方に様々な考えを述べて頂くコーナーを設けました。ご自分の思うところを投稿頂き、みなさまの意見の交換の場になれば、と願っています。

第2回は、養成部の内山さんにお願しました。

(広報部)

イエス様ごめんなさい

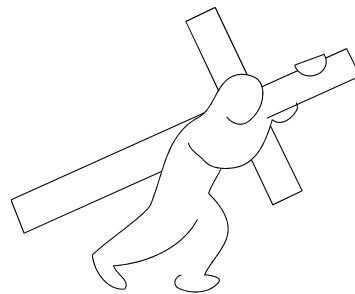
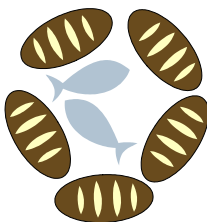
2008年の四旬節の間に私に深く問いかける言葉を聞きました。それはいつもミサの度に聞く「とって食べなさい」(マタイ26:26)の「食べる」と言う言葉でした。生命を維持する為に食べる食物は肉にしる、魚にしる、大根、芋にいたるまで他の生命です。彼等も生きていたものでした。食物となる動植物の飼育栽培は食べ側の論理で、都合の良いように、合理的に、儲かるように、沢山にと、飽くなく求める食べる側の生み出す偏った生命観は、人間社会の政治、経済、教育、文化にも反映し、戦争、格差、暴力、人権侵害、環境破壊生命軽視を生じる原因ともなっているように思えます。人間の生命を支える他の生命の軽視は、すべての生命の源である神の軽視にも繋がります。正義の代表者のように「食べる側」の力で押しまくる世の中であって、「私はどの側に立っているのか？」このような思いの時イエスの声を聞きました。

「わたしを食べなさい」あの方は「食べられる」側に立っておられました。イエスはあの十字架の時以来ずっと「食べられる」側に立ち、「食べる」側の者に「お前達はどれほど深く他者の思いに心を寄せているか。声にもならない小さな呻きを、どれだけ大事に受け止めているか」と問いかけておられました。

ご聖体を噛みしめる時「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈れ」(マタイ5:44)の御言葉が迫ります。秋に列福される188人の方々も今自分の命を奪おうとする者達のために祈り、約束された主の命に甦がえる栄光を確信して勇んで死んで行かれたのでしょうか。「自分の思い、自分の命に固執しては私の十字架は担えないよ」と云われる主の言葉に、いつまで経っても自分を捨てきれずにいる自分にいらだちを感じます。そんな私に主は、「私を食べなさい。食べて私の所に一緒に立ってごらん。」と、ミサの度に招いて下さいます。

それなのに私は、「まだ自分にしがみついています。ごめんなさい！」とただ小さな声で謝るだけです。

(養成部 内山 燐)





みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。



海星病院の御聖堂奉仕

世話人 木暮 靖夫

海星病院の新築とともに、一昨年12月から新しく生まれ変わりました御聖堂の世話を六甲教会ですることとなり、木鎌夫妻、藤井 恵津子、梅原 明子、長田 美代子、藤原 恵子、木暮夫妻の8名でミサの準備、お花の世話を行って参りましたが、この度、長田さん、藤原さんが退かれ、新たに5月から大西 洋子さん、蛭田 和子さんがご奉仕いただくことになりました。

「愛と奉仕の精神」という理念に基づく海星病院の御聖堂では現在、ミサと集会祭儀が毎月2回ずつ行われておりますが、祭儀には病院に入院しておられる信者やそのご家族、信者でない方でも手術前にお祈りされる方、また手術後の順調な回復を祈られる方、そして病院で働く方などが参加しておられます。

私たち奉仕者も様々な病に苦しむ方と共に神への祈りを捧げ、御聖堂に来られる方が少しでも心を和らげることが出来るよう努めていきたいと思っております。



主任司祭の地平線

『あらたふと 青葉若葉の 日の光』（芭蕉・奥の細道）。この俳句は新緑の頃を迎え、生きとし生けるもの全ての生命が発動してゆく、その源泉とも言うべき太陽の光を賛美し感謝し、合掌したいほどの気持である、という意味のようです。江戸時代には地球温暖化など考えもしなかったことでしょう。しかし私の子供の頃でさえ、夏は蚊帳・うちわ・かち割り氷、冬は火鉢・こたつ・湯たんぼぐらいで我慢し、季節感と風情がありました。文明の進歩によって、人間は退化しているのでしょうか。或いは文明を利用しているようで逆に振り回されているかも知れません？

実は天候も気持も良い此の時期に、**教会の現状の一端を正直にお伝えしたいと思います。**それは、教会内の空調についてです。夏には22～23度にまで冷やし、冬は25～26度に暖めて、部屋を使う方々がおられます。温度を適正にし、節約した分を貧しい人々に寄付すべき！という意見も出された程です。また、電気・冷暖房・換気扇を付けたまま退室する方々もおられます。水道の出っ放しに対しては、見るに見かねて工事をし、センサーやプッシュ方式に切り替えました。更に、信徒会館入り口は冷暖房があっても、開けっ放し！これも、自動で閉まる新しいドアに替えました。

これらの問題にどのように対処すべきか考えてきましたが、温暖化対策以前の問題ではないでしょうか。私には「やむを得ない」という答えしか見つかりませんでした。無関心？家庭のしつけ？社会の風潮？高齢化？教会とは一体何か？ ところで、皆さんの答えは如何ですか？



初聖体・祝福式&親睦会

2008年3月31日〔日〕



12名の子供たちが初聖体・祝福式に与りました。



懇親会ではたくさんの方が祝ってくれました。



☆ 初聖体・祝福式の子供たちの感想 ☆

「はつせいたいをうけて」 橋おか 尚

ぼくは、はつせいたいをうけました。すごいきんちょうしました。せんれい名はミカエルです。ミカエルは大天使です。大天使ミカエルのことがかっこいいとおもいます。だってミカエルはきゅうきゅうたいいんのしゅごせいじんだし、強くて人をまもってくれるからです。なので、ぼくはミカエルがせんれいめいでよかったです。

はつせいたいが始まって、こうきリーダーが「なまえをよばれた人はハイと大きな声でへんじをしてみえにしてください。」といった。まえにたってみると、すごく大ぜいの人が見えたのでモットモットきんちょうしました。イエスさまのからだをいただいたとき、イエスさまのからだはおあじがなくて、ずっとかんでるとトロ口になりました。はつせいたいがおわると、みんなでしゃしんをとりました。ぼくはにっこりわらいました。そのあといるんな人がほめてくれました。

「しゅくふくしき」 前芝 美怜奈

3月30日、教会でしゅくふくをうけました。リハーサルではあまり上手に出来なかったけど、とう日は少しだけうまく出来てよかったです。聖堂に入る時、先頭だったのでとてもきんちょうしたけど、みんなが大きなはく手をしながら「おめでとう」といってくれてとてもうれしかったです。しゅくふくして下さる気持ちがすごく伝わってきました。これからも教会でいっぱいのことを知りたいです。

初聖体・祝福式を受けた父兄の感想

「初聖体」 宮崎(父兄)

2歳年上の長男に続き、次男の根於も六甲教会で初聖体の祝福を受けることができました。毎週土曜日、暖かい指導で彼を導いて下さった神父様をはじめリーダーの皆様に深く御礼申し上げます。私達キリスト教信者にとって初聖体は大きな節目。かわいい白衣を着た子供達が無事に聖体拝領を受けたすがたに、喜びと主への感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、人を愛し、人をゆるし、自らを信じて主と共に生きてゆく強さをキリスト教を通じて学んでいくと願っております。

「祝福式を終えて」 宮本 佳良子(父兄)

初聖体・祝福式に参加させていただいたこと、心より御礼申し上げます。リーダーをはじめ、多くの教会関係者の方々には大変お世話になりました。式に向けての一日練成会では花飾りの制作、十字架の道行き、神父様のお話など、色々な事を教えていただき式の準備をすることができました。なにもかも初めてのことでしたので勉強になりました。子供も式に向けてクラスで勉強して、ミサに参加できたのでお祈りの言葉も理解でき、ミサも短く感じたと言っていました。本当にたくさんの方々のご協力で、初聖体・祝福式のお祝いをしていただきありがとうございました。式に参加でき感謝しております。

“聖 火”

2008年3月29日(土)四谷駅から迎賓館へと続く土手の桜並木が、共に祝ってくれるようにみごとに満開。その土手の桜が見下ろす四谷イグナチオ教会の聖堂で、それぞれ国の違った3人合同の助祭叙階式に与ることができました。ちょっとしたことがきっかけで、2001年に我が家にお預かりした神学生アント。私はホストマザーとしても叙階の恵に与れるようにと、多くの方々の助けを借りながら共に祈りつつ、7年間この日の来るのを楽しみに待っていました。

この日初めてお目にかかった、片柳さんのお母様と叔母様達。六甲に着任されたことへの感謝と、お祝いのご挨拶を交わしました。お母様の、緊張と不安げな表情が交錯する中で語られた言葉は、「私たちは信者ではありません。」「何も分かりませんし、何もできません。」「息子をよろしく願います。」「息子をお願いします。。」と、何度も何度も頭を下げられました。この言葉の裏には、母の腕から飛び出し、この“路”に進んだ息子に対する戸惑いや不安、そして寂しさや愛おしさ。ここに来るまでの“心”の葛藤が受け取れました。私はすべての思いが込められているお母様の言葉を深く心に受けとめ、私たちのために遣わされた3人を大切に育てて行くお手伝いができればと思いました。

受階者3名： ・Fransiskus Xaverius Purhastanto・アント(インドネシア)
・パウロ・片柳弘史(日本)
・Thomas Njaralamkulath Varkey・トーマス(インド)

司式司祭は東京教区ヤコブ幸田和生補佐司教。式次第にそって司教・司祭団の入祭に始まり、ことばの典礼。3人の受階者の呼び出し。助祭職受諾の意思表示・従順の約束等と続き、感謝の典礼・交わりの儀そして閉祭の儀へと…。厳粛で荘厳な典礼の中にも、随所に若い感覚が取り入れられ、躍動感が感じられる式でした。

この日、若い助祭達のために選ばれた福音箇所は、マタイ20:25～28 “あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、一番上になりたい者は、皆の僕になりなさい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように”でした。

それぞれに、どのような思いで聞かれたのでしょうか？若い時から故郷や親兄弟、お友人達と離れて、“キリストの愛”を伝えるために、修練期・哲学期・中間期・神学期と長い時をかけて学び、多くの人の“道標(みちしるべ)”として仕えるための使命感と喜びを秘めて、この言葉を聞かれたことでしょう。

昨今を賑わしているニュースの中での“聖火”リレーは、現在社会を象徴するように各国で厳戒態勢と混乱の中を走っています。でも、神様から3人に灯された“聖火”は消すことなく、多くの人々の行く先を照らして下さい。

やっと入学式を終えた一年生。これから先、まだまだ厳しい路を歩まなければならない時もあると思います。私には、仕える者としての働きをただ見守ることしかできませんが、召し出しを強めるための恵と力が与えられますように、今も祈り続けています…。(Akemi Kawagoe)



従順の約束



按手



交わりの儀

☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺ ☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺ 婦人会総会 4月4日(金) ☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺

初金の後、11時より婦人会総会が開かれました。

2007年度会長山本さんの挨拶に始まり、2007年度会計報告が行われ、承認されました。また婦人会から教会への寄付が山本さんより神父様に手渡されました。引き続き2008年度新会長にバトンタッチされ、新年度から大きく変更された「お掃除」について施設管理部の方々から説明を受けました。神父様からはミサ案内についてのお話がありました。

大勢の方々の参加を得て、無事終了致しました。

今年度も皆様のお導きとご協力をよろしくお願い致します。(森川 房代)

☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺ ☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺ 壮年会総会 4月6日(日) ☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺

11時のミサ終了後12時半から総会が開かれ、安芸神父、コリンズ神父そして片柳助祭にも出席いただき総勢31名となりました。07年度事業報告・収支計算書・会計報告・08年度予算案・行事案が承認されました。また、本年度より壮年会として聖堂掃除当番に加わりますが16名の方に掃除班として登録いただきました。片柳助祭からご挨拶いただき、「イエス・キリストはどこにいるのか」という神学的なお話を頂き「信徒の教会づくり」の意味、重要性について示唆をいただきました。

そのあと昼食懇親会に移りましたが、流石の多士済々の壮年会のメンバーで出席者全員のスピーチで大いに湧き2時終了予定が3時になってしまいました。出席者は60~70歳台が中心でしたが、年齢幅は89歳(一人)~35歳(一人)でした。

元気な六甲教会を誓ってお開きとなりました。皆さんお疲れ様でした。(川合弘一)

教会学校 入学式

4月12日(土)14時30分から2008年度入学式&始業式が行われました。

新入生17名を迎え、また数名のニューリーダーと片柳助祭が加わり、教会学校は希望と喜びのうちにスタートしました。皆様のご支援のお祈りとご協力を宜しくお願い致します。



17名の新1年生が勢揃い

4月12日(土)に聖堂において教会学校の入学式が行われました。今年入学した新1年生は、男の子が7人、女の子が10人の計17人です。入学式ではみんなしっかりした口調で自己紹介をして、これから教会学校で一緒に過ごすお友達やリーダー達と共に明るい歌声を元気よく聞かせてくれました。

この17人の新しい子供たちが、この教会でしっかりとイエス様のことや教会のことを学ぶようみなさんも温かい目で見守ってあげてください。

(教会学校1年生担当リーダー)

生徒数: 計79名、リーダー: 24名(4/19現在)

(1年生17名、2年生14名、3年生12名、4年生17名、5年生11名、6年生8名)

～・～・～ 各部紹介 ～・～・～

典 礼 部

コーディネーター 堤 緑

今年の復活祭に受洗されました方々に心からお祝い申し上げます。その方々が可能な限り主日の典礼を中心とした生活のリズムを作られ典礼を理解され共同体の中に場所を見つけ、いつの日か典礼奉仕へ参加をしていただけますよう希望しております。

さて、典礼部の紹介をしたいという原稿のご依頼を頂きまして、2年前を思い返してみますと、回りの方々へのご迷惑も考えず無謀にもコーディネーターをお引き受けしましたが、教会の皆様を支えられて今日に至っております。この様なお役をさせていただくのは恐れ多いことと思っておりますが、おかげさまで色々な事を経験させていただくうちに、神様を信頼して出来る限りのことをやらせて頂いたら良いのではないかと考えるようになりました。

典礼部では2ヶ月に1度部会をおこない、クリスマスや復活祭その他の典礼行事のミサの奉仕者や準備について、又典礼の奉仕者や信徒の皆様から寄せられます様々なご意見についても、司祭のご指導を受けながら部員の皆様と相談し決定しております。将来の六甲教会の典礼の活性化と生き生きとした典礼を目指して、典礼奉仕者の集い、聖体奉仕者黙想会、侍者会の勉強会やオルガニストの講習会なども実施しております。また、昨年6月3日東ブロック合同堅信式が行われ、住吉教会や神戸中央教会の方々と一緒にプログラムを作り準備しましたが、その頃から聖体奉仕者黙想会に両教会の方々に参加していただき、ブロックとしての活動の広がりも見られます。

私は、典礼部の大事な仕事は、一人一人の典礼奉仕者の方がいつも安心して喜びを持って奉仕ができますことを念頭において、サポートしていくことではないかと考えています。イエス・キリストのかたどりである祭壇の近くで奉仕できますことは、どの信者の方にとっても心からの喜びではないかと思えます。どうか今後とも一人でも多くの方が典礼の奉仕に参加されますようによりしくお願い申し上げます。

各 部 だ よ り

各部の活動の連絡を記載いたします。教会活動の参考になさってください。

📖 婦人会

- ・5月 2日(金) 初金ミサ 10時
- ・5月 23日(金) 婦人会遠足
申し込み〆切 5月2日(金)
- ・5月 30日(金) イエスのみ心ミサ 10時
- ・5月 31日(土) マリア祭 ロザリオの祈り
ミサ 10時

📖 三日月会

- ・5月 19日(月)14:00 ミサ
例会：講演三浦優子氏
「グレゴリオ聖歌」
喫茶：5月 4日 9時 ミサ後～13:00
於 イグナチオホール

📖 青年会

- 定例会 5月 11日(日)12:30
場所：第5会議室
予定：福音書を読んで分かち合い
- 定例会 5月 25日(日)12:30
場所：第5会議室
予定：福音書を読んで分かち合い
- ※ 参加人数はいつもだいたい5から10人程度です。どうぞ、お越し下さい。
- ※ 5月 18日(日) ハイキング(場所未定)

📖 教会学校

- ・5月 3日(土) 休校
- ・5月 10日(土) 17日(土)、24日(土) 通常通り

・5月31日(土) ウォークラリー(東ブロック主催)

- 東ブロック(六甲教会、住吉教会、神戸中央教会)主催のウォークラリーは住吉 六甲 神戸中央教会と歩きます。一部公共交通機関を使用します。昼食は六甲教会で行います。他の教会のお友達も沢山できることでしょう。みんなで楽しみましょう!!

典礼奉仕者(案内係・お花係・海星病院含む)の方は、両日とも同じ内容です。

いずれかご出席ください。

📖社会活動部

学習会

- ・5月2日(金)11時(イグナチオホール)
講師: Sr 小野島 照子
“ルワンダのその後、隠された事実”
ルワンダからの現状報告&ビデオ上映
どなたでも参加ご自由です。

📖典礼部

典礼奉仕者の集いについて

- ・6月22日(日)13時30分~15時30分
(第1、2会議室)
- ・6月29日(日)13時30分~15時30分
(イグナチオホール)
- ・指 導: コリンズ神父

連絡会

- ・5月2日(金)10時初金ミサ後、開催予定
- ・5月31日(土)9:00
東ブロック・ウォークラリーの昼食サービスお手伝

<お 知 ら せ>

各部の活動の連絡ですが、広く信徒の皆さんに呼びかける内容の記事をここに記載いたします。教会活動の参考になさってください。

【社会活動部 より】

- ・5月7日(水)10:00 手芸の集い(第1・2会議室) ♪どなたでも参加ご自由です。
- ・5月10日(土)10:00 炊き出し(イグナチオホール台所)
小野浜グラウンドにて配食のお手伝いやお話相手だけでもOKです。
- ・5月15日(木)14:00 ベタニアの集い
- ・5月18日(日)9:00 ミサ後、手作りコーナー(イグナチオホール)

★ 聖書と生活 ★

ヨハネ福音書(講師: Fr ホアン・マシア)

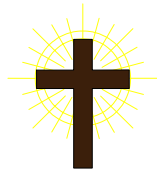
- ・5月5日(月) お休み
- ・5月19日(月) 10:00~ (第1会議室)



【養 成 部 より】

- ・5月24日(土)10:00~15:00 祈りの道場
 - ★ 指 導: 英 隆一郎 神父
 - ★ 会 場: カトリック六甲教会
 - ★ 会 費: 600円(昼食代として)
 - ★ 申込締切: 5月17日(土)

< 十字架のしるし >



十字架のしるしの意味についてコリント神父様にご説明をいただきました。神様の御一人子イエスは人類の罪の償いをするため十字架をお選びになりました。恥ずべき罪人を死刑にするための十字架に付けられた時から、十字架自体は人類の歴史の中で一番偉大なしるしになりました。十字架につけられた後復活が起こり、復活後聖霊が送られ、聖霊によって教会が生まれました。

十字架は信じる人々に対して神様の愛とあわれみの目に見えるしるしです。そのしるしを通して神様の恵みが必ず与えられるとは言えないので、教会の七つの秘跡には含まれていませんが、十字架をきることによって信者が神の愛とあわれみを思い出します。十字架のしるしによって御ミサが始まり、そのしるしで終わります。メダイとロザリオは十字架のしるしで祝別され、また各七つの秘跡には十字架のしるしが使われます。

内面的な熱望を表すために、人間には外的なしるしが必要です。たとえば人に出会う時お辞儀や握手をしますし、結婚式とお葬儀には適切な服を着ます。喜ぶときに歌い、悲しむときに泣きません。目に見えるものを通して目に見えない心の状態を表現しますが、ただ周りの人々に対する表現だけではなく、自分自身にも影響を及ぼします。したがって神様の恵みを願う時に、目に見える十字架のしるしでその恵みをいただきます。その恵みは十字架のしるしによるものではないのですが、私たちはシンボルを通してその恵みを認識します。

パウロはコリント人に奇跡のキリスト、また例え話のキリストではなく、十字架のキリストを宣教すると書きました。「十字架の教えは、滅びてしまう者にとっては馬鹿らしいことですが、救いの道を歩いているわたしたちにとっては神の力です。」人類の救いは非常に具体的な形になったので、その十字架の形はパウロの誇りでした。

神の御一人子による神の救いを認めるたびに、十字架のしるしを通してそのすばらしい出来事を認めます。十字架のしるしは心の中にある信仰の表現です。つまり私たち一人一人は父と子と聖霊によって救われている者なのです。
(典礼部 大倉 本子)



信 徒 動 静

【転入】これからどうぞよろしく。

4/3 マリア・ミカエラ 鵜野 あい子
4/17 ペトロ Kim sung min

【結婚】おめでとうございます。

4/26 陳 賢太
カタリナ 畑原 麻里
4/27 鶴目 信一
アグネス 蟹江 明子

【洗礼】おめでとうございます。

4/13 リジューのテレジア 見市 茉菜

【帰天】永遠の安息をお祈り致します。

4/4 マリア 馬戸 事

「壬生義士伝」(上・下) 浅田次郎 著 (文芸春秋 刊)

南部盛岡藩を脱藩し、新撰組隊士となった吉村貫一郎は、実は、義と愛を貫き、「南部の桜は巖いわおすら砕き咲く」を絵に描いたような、誠の南部武士、義士であった。吉村貫一郎という一人の人を色々な人に語らせることにより、その人物像を浮き彫りにしている。「南部の子だれば、石ば割って咲げ」などの方言での語りは、情景や情感を何とも盛り上げる。死を目前に、遠くにいる妻と子や冥府の父母との対話のシーンは、涙溢れて止まない。

時が変わって、貫一郎の息子が稲の品種改良に成功し、故郷の盛岡高等農林学校の教授として赴任する、盛大な歓迎の場面で終わる。人を動かす目に見えない大きな力を考えさせられ、マタイ5章「山上の説教」、真福八端の8番目、「義のために迫害される人は幸いである、天の国はその人のものだからである」を思い浮かべた。親の後姿、家族愛、罪と償い、不条理、深謀遠慮、復活の命などに気付かされる。生き方を問われているようであり、「世の中が良くなって、生き方を知らねえ。そういう馬鹿な男がふえたってこつてす」という文中の言葉が頭に残る。(宮根 憲二)

「神道と日本人」 葉室 頼昭 著 (春秋社 刊)

著者は外科医である。しかし53歳の時に「導かれて」神主になり、現在は奈良の春日大社の宮司である。神道に於て神を信じるとはどういう事か、日本人の本来の姿とはどういうものかなど、とてもわかりやすく対話形式で書かれている。『罪』の意味は、表音文字である日本語からは、「体を包む」ことである。中国から伝わった漢字で「罪」と書くから悪いことをした事などと思いがちだが、本来の意味は、「神様からのすばらしい体を包んで隠してしまう」ことだという。また「穢(けがれ)」とは汚いと言う意味ではなく、『気枯れ』であり、我々を生かしてくれる神様の気を枯らしてしまうこととある。

お祓いは、世界で日本人だけが考えたものだという。人間の体は、神様が150億年もかかって作られたもので、もともとはばい菌などで簡単に侵されるわけがない、すばらしいもの。それをおおい隠すものがつくからダメになる。それはすべて「我」のせいで、我欲があるから「罪・穢れ・病気・悩み・悲しみ」が起こってくる。「お祓い」はその我欲を祓って神様の作られたもとのすばらしい体に戻りなさいということである、と。また、「祈る」ということについては、「い」は命、生きる知恵のこと、「のる」とは宣言の宣の意味、神様のおっしゃる言葉が伝わってくるというのが本来の意味。ただ感謝してすべてお恵みによって生かされているというのが日本人であるとあった。全体としてキリスト教と通じるところもあるし、同じ言葉を用いても違いを感じることもある。言葉より、その奥に流れる宗教性、心を読み取ることがより大事ではないかと思う。

イエズス会の門脇佳吉師も「キリスト者は、自然の中の神体験を神道から大いに学ぶべきだと思います。そうしなければ、キリストが命を賭けてもたらした教えは、日本人の血となり肉とならないでしょう。この点を私はキリスト者の皆さんに是非訴えたいと思います。」と述べておられる(「日本の宗教とキリストの道」岩波書店1997年)。葉室氏の上掲の書は、そうした意味で神道を知る取っ掛かりになるかと思う。(北上 千恵子)

5 月 の 予 定

日	曜	教 会 暦	教 会 行 事
2	金	聖アタナシオ司教教会博士	初金 7:00 10:00 ミサ
3	土	聖フィリポ 聖ヤコブ使徒	
4	日	主の昇天(祭日)	17:00 海星病院集会祭儀
11	日	聖霊降臨の主日(祭日)	10:15 小教区評議会
14	水	聖マチア使徒	
15	木		14:00 ベタニアの集い
18	日	三位一体の主日(祭日)	14:00 結婚準備セミナー開始(6/8まで) 17:00 海星病院集会祭儀
19	月		14:00 三日月会 ミサと例会
23	金		婦人会遠足(龍野)
24	土		10:00 祈りの道場(15:00 ミサ)
25	日	キリストの聖体(祝日)<両形態拝領>	
26	月	聖フィリポ・ネリ司祭	11:00 ベビーとママの集い
30	金	イエスのみ心(祭日)	7:00 10:00 ミサ 15:00 聖体賛美式
31	土	聖母の訪問	マリア祭 7:00 10:00 ミサとロザリオの祈り 9:30 東ブロック教会学校ウオーク・ラリー



5月には聖堂の周りにつつじが咲き乱れ、聖堂の外壁の白さとのコントラストが美しい。今年は外壁工事のため、一部花が取り除かれ、その美しさを味わえないかも知れないので、昨年撮った写真で紹介します。



広報部員のつばやき

今年も新緑が目目に沁みる季節がやってきた。桜が散った教会内には、木々の新芽が芽を吹き、心を癒してくれる。木々の下では、入学式を終えた教会学校の新一年生が大声をあげながら、所狭しと走り廻る。そんな元気な子供たちを見ていると、ふと明日の教会を思った。

これから教会も、高齢化の進む中でこの子供たちやリーダーの若者達に依るところが益々大きくなるだろう。我々大人は、神様から与えられたこの宝物を大切に育てていかなければならない。まさしく「教会学校」は、宣教布教の大きな役割を担っている。

今後も紙面で、八十名近い教会学校の子供たちの様子や彼等のために働いているリーダーたちの活躍ぶりを紹介しながら、明日の教会を考えていきたい。(T.H)

教会報6月号の発行は、6月1日(日)です。
編集会議は5月24日(日)です。
記事原稿は、5月17日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。(広報部)
<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父
編 集 広 報 部